


### 逃げるな！受験生

受験生の顔つきがよくない。疲れている。眼の輝きが乏しい。肝心の勉強も遅れ気味の人が多い。でも、思いつめている風でもない。「何となくブルー」といった感じが。



先に生まれた者としては、正直いって情けない。何故もつと一生懸命にならないのか？勉強するのならもつと一生懸命やれ。悩むのならもつと悩め。受験に外の道を探すのならもつとあがけ。中途半端な人がいてもいいし、そういう状態の時期があつてもかまわないが、何故、こんなに大勢の人がそうなんだ？

とはいうものの、キミ達が、そういう在り方をしているのは、一部は社会の責任であり、人によっては一部は家庭に原因があり、また、個人の資質の部分もあるだろう。何よりもキミ達の多くが夢を持たずに生きていて、何かで傷つくのを避けようといつも一歩引いて身を置いているのは、この社会の大人達(私もその一人の在り方を反映している。そのことに、私もいくらかの責任を感じるのだけれども、それでもいいたい。今のままでは、幸福感は味わえないぞ。ささやかな希望は幻想に終わるぞ。

私は、失敗ばかり重ねてきた人間である。(そ

の失敗の数々は、恥ずかしくてここには書けない。行き詰まって駆け込んで来た人にだけ話すことはある。(しかし、いろいろな人達のお陰で何とか生きてこられた。その人達のお陰で、幸福感を味わせてもらっている。「幸福



福感」これは、本当に大切なものだ。人はまさにこのために生きていっているといつてもよい。そしてキミ達にも、是非味わってほしい。そして、それを味わっているキミ達をみてみたい。不思議だが、それが私の「幸福感」を肥やす。で、言おう。

自分の気持ちをよく見る。「勉強したくない」「気がのらない」「どっせ...」といつのは、きみの一番大事な思いか？ちがうはずだ。そんなものは表面的な気分だ。きみの心の底にも「力をつけたい」「合格したい」という願望が確実に存在している。それを気分で裏切っているから不快なのだ。大切にしたいのはどちらか？ 毎日毎日選択しろ。それが実は生きることなのだ。それが自分を大事にすることなのだ。勉強がうまくいっていないA君もB君もCさんも「今の自分が嫌い」と言った。冗談じゃない。だったら好きになるように動け。ほんのちよつとの勇気を出して選択しろ。そして続ける。但し、これから気合を入れても、先は甘くないぞ。結果が出るのに2~3ヶ月はかかる。その時間を耐える。「耐え続ければ、必ず成果が上がるぞ」と、これを約束して筆を置く。

(小林(健))

### 作業から勉強へ

自分としては勉強しているつもりなのだがなかなか成績の方は上がらないと悩んでいる塾生が少なからずいると思います。絶対的な勉強時間が不足している人は論外として、勉強時間の割には、成績の上がらない人たちについて少し考察してみたいと思います。

この手の生徒の共通点は、勉強に時間を費やしているのではなく、作業に時間を費やしてしまっているということです。例えば、いくらきれいにノートを作っても、その内容が頭に入っていないかなければ、それは単なる作業であり、勉強したことにはならないということです。したがって成績の向上もありません。それでは以下に具体例をいくつか挙げて説明してみよう。

二十個の漢字を覚えるとき、ただその漢字を十回ずつ書いただけでは作業です。覚えようという意識が働くことが必要です。その意識をもっているならば、読み方や意味もわからないまままだ漢字を書くといつような愚かな作業はしないはず。英単語を覚えるときも同様、発音もわからないままスペル練習をしてもそれは一過性の作業に過ぎません。どちらの場合も覚えようという強い意志が働けば、覚えやすく忘れにくいよつと考えて練習するはず。こつなつて初めて漢字練習やスペル練習も勉強となりつるのです。単なる作業を繰り返しても時間の無駄にしかありません。

英語で不定詞の単元を学習し、その問題練習

をするとき、文の意味も考えず、ただ不定詞をあてはめていくのは、作業です。どうしてこうなるのかと考えながら問題練習をして初めて勉強です。実際の試験では不定詞があてはまるかどうかを判断しなければなりません。しかし、理解を伴わない作業ではこの肝心の判断力が全くつかないのです。したがって得点することはできません。

問題演習のとき、ただ解いていくだけで答え合わせもしないのは作業。答え合わせをしてもただ x をつけるだけでは作業。勉強とは、間違えたりわからなかつたりしたときに、立ち止まり納得するまで考えることです。言い換えれば頭を使つていない勉強は単なる作業に過ぎないということです。

単なる作業の勉強から本当の意味での勉強への脱皮が学力向上には必要条件です。成績が伸びないで悩んでいる人たちは少しこのことを考えてみてください。

(村上)

### ト・ン・デモ

「パンが安いのなら……」

歴史の様々なランキングの常連である、かのマリー・アントワネットは、市民が庄政による貧困と空腹で苦しんでいる中、このよつに言つたとされている。「パンが無いのなら、お菓子を食へればいいんじゃない?」

「ケーキ」等他説有り

数ある歴史上の迷言の中でも、このト・ン・デモ

ぶりは、たいへんふるっている。貴族、王室、王妃様、ステキです。

さて、マリー・アントワネット本人の口から発せられた表現か否かも諸説あるが、仮に事実だとして、一個人がこのように表現するに至った背景は、一体どのようなものなのだろう。

彼女が生きていたその時代の構造、彼女を取り巻く環境、さらには彼女が生まれる前から受け継がれてきた貴族という人種の思考、体質、指向性などの大きなつねりが、見えない大きな何かが、マリー・



アントワネットという一個人に先のせりふをつぶやかせたのかもしれないし、単純に彼女が何か異様、特異なのかもしれない。

もし、庶民の中から数人選んで、王室に送り込み、彼女と同じような生活を半年送ったら、さらに一年送ったら、どう変わっていくのだろう。逆にマリー・アントワネットの方を庶民の生活比較的豊かなの中に送り込んだら……。人間の可塑性、可能性とはどのようなものだろう。

### 科学と歴史

科学的な技術は、マイクロサイズでは海王星まで、ミクロサイズでは遺伝子の領域まで、さらにはナノサイズで次の領域へと。技術がさらなる新しい技術を生むので、まさに日進月歩である。

では、等身大の我々人間そのものはどのような領域へ向かうのか。ナノテクノロジーや脳科学や高速通信や高速移動の恩恵で我々はどのような

わるのか。より良く変われるのか。

生命科学や文化人類学の専門家は、「現代の人類は、高速道路の上を人力車や自転車ですべて走っているようなものだ。」と表現する。技術的側面、ハード面だけ先行するが、遺伝子レベルでのヒトは、何万年も



の間、何も変化が無いと。すると、我々ヒトの遅々たる変化の傾向や反応の特性は、過去の歴史の中に何かヒントが見つかるかもしれない。

歴史の中には、等身大の我々ヒトの、普段は見られない姿が見え隠れする。人間の欲望の制限の無さ、おぞましき。極限状態の中で人間の残酷さ、凶暴性、類・群れの中での利己、

群集欲排他性。もちろん自己犠牲の姿もあり、救われる。そしてまた希望も持てる。「時代の何年にこういう事がありました。」という、史実を時系列で覚えていくことだけが歴史の勉強ではない。なぜ、どうしてそうなったのか。そこに人間のどんな姿が見えるのか。そしてそこにはどのような本質があるのか。これらを重ね合わせることで、像が一つに結ばれ浮かび上がるのではないだろうか。等身大の、

実物大の「人」という像が。歴史とは、等身大の人を分析・解析する「科学」なのかもしれない。創学舎の中3夏期講習の社会科では、全16日間、歴史を学ぶ。若く青く柔軟な君たちだからこそ、歴史から感じとれることが数多くあるはずだ。(五日市)

## 自習を頑張る人たちに

数年前の話だが、私の友人が彼岸花を見て「ばばあ」と呼んだことがあった。私はびっくりして、何を言っているんだ。これは彼岸花だとしても彼女はきよんとんとして「はっかけばあ」と言い直した。その時は彼女が変になっただのかと思ったのだが、家に帰って辞書で調べてみたら彼岸花の異名としてしっかりと載っていた。電話して謝るついでに彼女に色々聞いてみると、彼女の故郷では「はっかけばあ」の前を通るとお婆さんに歯を抜かれてしまうから歯を隠しながら素早く前を通るのが子供の常識(??)だったそう。

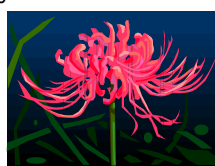
ところで、定期テスト前になると自習ブースにはたくさん生徒が来る。創学舎の中学部で高校受験を乗り越えて今は個別指導部に通う高校生と、これから高校受験に突入しようとしている中学生が一緒に自習している空間で、圧倒的な差を感じたことがある。

それは講師への質問量である。勉強内容が難しいのは高校生のはずなのだが、中学生の方が圧倒的に質問量が多いのだ。受験という壁を乗り越えた高校生には、まず分からない問題があると解答をしっかりと読み込む習慣が身に付いている。その中の解説が不十分だと感じると、類題の載っている他の問題集を借りに来て、その解説も読み込む。その中でどうしても納得できないことのみを講師には聞きに来るのである。講師も質問が絞られているから簡潔に答えやす

いし、この方法だと講師がいなくても自習がどんどん進んでいく。何より自分で疑問を解決したという達成感が味わえるのだ。この達成感が自習を楽しくする。遠回りに感じるが実は効率的な学習方法なのである。

念のために言うておくが、質問することは全く悪いことではない。ただ、質問する前にちょっとしたこと、気を付けてほしい。自分の解いたノートは見直したか？ 解答の解説は読み込んだか？ 辞書や参考書で調べたか？ これが面倒だと思っているうちは残念ながらそんなに成績は上がらないだろう。逆にこのことが学ぶことの楽しさであると気付いた子から成績は急上昇している。このことに気付くには個人差があるからまずは自習しようという気持ちを行動に移すことから、いいと思う。

彼岸花は不吉なイメージの花であると思っていなかった。しかし、疑問を持ったときにそれを調べると色々な発見がある。彼岸花には他にも「地獄花」や「捨子花」といった負のイメージの異名が多いこと。ではなぜ、負のイメージが多いのか。その答えを見つけたとき、これが調べることの楽しさだと思った。あえてその答えは書かない。疑問に思ったことを自分で調べて分かったときのワクワクを自習を通して体感してもらいたい。(座安)



### ▲継続希望の方へ▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。